

山口県日本海の貝類：ドレッジで採集した漸深海底の貝類（Ⅱ）

杉村 智幸¹⁾

はじめに

筆者は、ドレッジ型採泥器を用いて山口県日本海の漸深海底に生息する貝類を採集し、山口県新記録にあたる種を本誌において分類順に図示、記載中である（杉村, 2013）。それらの大半は、これまで熱帯インド太平洋岸および日本本土太平洋岸の黒潮流域沿岸でのみ観察されてきたため、同時に日本海新記録を更新している。そこで今回より、日本海新記録にあたる種については※印を付して区別してある。

本稿作成にあたり、飯野剛氏（大阪府）にはウミウサギガイ科の貝類を、中山大成氏（大阪府）にはイトカケガイ科の貝類を同定していただいた。江川和文氏（和歌山県）には、原稿の校閲をしていただいた。心よりお礼申し上げます。

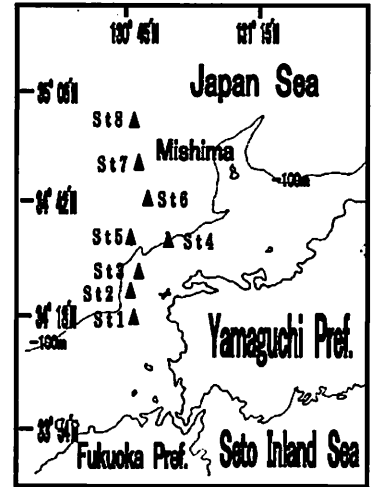


図1 調査地点

観察した貝類（承前）

山口県新記録の貝類12科41種を図示、記載する。分類順、学名はHigo *et al.*, (1999) に主に従った。

Class Gastropoda CUVIER, 1797 腹足綱

Family Ovulidae FLEMING, 1822 ウミウサギガイ科

※*Pseudocypraea exquisita* Petuch, 1979 ユウナムギツブダカラ (Pl.3, fig.36) St2

備考：死殻1個体を観察したのみ。本種はこれまで三浦半島以南の熱帯インド太平洋岸および南アフリカから記録されている（飯野, 2010）。

※*Prionovolva ericae* Cossignani & Calo, 2002 サクラコダマウサギ (Pl.3, fig.37) St2

備考：古い死殻2個体を観察したのみ。本種はこれまで房総半島以南の熱帯インド太平洋岸から記録されている（飯野, 2010）。

※*Primovula (Primovula) habui* Cate, 1973 ハブケボリ (Pl.3, fig.38) St3

備考：死殻1個体を観察したのみ。本種はこれまで伊豆半島以南の熱帯インド太平洋岸および南アフリカから記録されているが、産出は比較的稀である（飯野, 2010）。

※*Carpiscula galearis* Cate, 1937 カプトケボリ (Pl.3, fig.39) St3

備考：死殻1個体を観察したのみ。本種はこれまで和歌山県以南の熱帯インド太平洋岸および瀬戸内海、韓国（済州島）から記録されている（飯野, 2010）。

¹⁾ SUGIMURA, Tomoyuki 山口市立仁保小学校（〒753-0302 山口市仁保中郷81）

※*Crenovolva (Cuspidolva) cuspidata* Cate, 1973 トガリアヤメ (Pl.3, fig.40) St2

備考：古い死殻 1 個体を観察したのみ。本種はこれまで三浦半島以南の熱帯インド太平洋岸および瀬戸内海、韓国（済州島）から記録されている（飯野, 2010）。

※*Crenovolva (Cuspidolva) draperi* Cate & Azuma, 1973 ドレイパーケボリ (Pl.3, fig.41) St2

備考：破損した古い死殻 1 個体を観察したのみ。本種はこれまで三浦半島以南のオーストラリアを含む熱帯インド太平洋岸および南アフリカ、さらに韓国（済州島）からも記録されているが、産出はかなり稀である（飯野, 2010）。

※*Aclyvolva clara* Cate, 1973 ユキキヌズツミ (Pl.3, fig.42) St2

備考：1 個体を観察したのみ。後管溝が破損しているため、通常の個体よりも殻長がやや短い。本種はこれまで紀伊半島以南の熱帯インド太平洋岸および南アフリカから記録されているが、産出はかなり稀である（飯野, 2010）。

Family Triviidae TROSCHEL, 1863 シラタマガイ科

Robertotrivia sagamiensis (Kuroda & Habe in Kuroda et al., 1971) サガミシラタマ (Pl.3, fig.43) St6

備考：死殻 1 個体と破片 1 個体を観察したのみ。

Family Velutinoidea GRAY, 1840 ハナツトガイ科

Limneria bulla Habe, 1958 マルハナツト (Pl.3, fig.44) St2

備考：やや古い死殻 3 個体を観察したのみ。本種はこれまで銚子以北および福井以北から記録されてきたため（Higo et al., 1999）、今回が日本海における南限の記録となる。

Family Naticidae FORBES, 1838 タマガイ科

※*Lunatia sagamiensis* Kuroda & Habe in Kuroda et al., 1971 サガミオリイレシラタマ (Pl.3, fig.45) St6

備考：死殻 8 個体を観察したのみ。本種はこれまで銚子以南の日本本土太平洋岸および九州西岸から記録されている（Higo et al., 1999）。

※*Tanea tabularis* Kuroda, 1961 シシダマ (Pl.3, fig.46) St3

備考：1 個体を観察したのみ。本種はこれまで遠州灘以南の日本本土太平洋岸および九州西岸から記録されている（Higo et al., 1999）。

※*Naticarius excellens* Azuma, 1961 ヒメフロガイ (Pl.3, fig.47) St4

備考：死殻 1 個体を観察したのみ。本種はこれまで遠州灘以南の日本本土太平洋岸および九州西岸から記録されている（Higo et al., 1999）。

Family Epitoniidae BERRY, 1910 イトカケガイ科

Obstopalis sp. (Pl.3, fig.48) St6

備考：死殻 5 個体を観察した。殻は白く光沢がある。奥谷（2000）や Nakayama（2003）等々に示された同属他種に比べ、はるかに小型で細い。縦肋は太く丸く、肋間はやや広い。縫合下は角張る。底盤は明瞭で、臍孔は滑層で塞がれている。

※*Gyroscaia (Circuloscaia) iwaotakii* (Azuma, 1961) タキイトカケ (Pl.3, fig.49) St3

備考：破損した古い死殻 1 個体を観察したのみ。本種はこれまで紀伊半島から土佐湾にかけての太平洋岸の深海底から記録されている（Nakayama, 2003）。

※*Amaea (Amaea) foulisi* Kilburn, 1985 チャイロコナガイトカケ (Pl.3,fig.50) St2

備考：死殻2個体を観察したのみ。本種はこれまで紀伊半島から台湾、および南アフリカから記録されている (Nakayama,2003)。下関市豊北町土井が浜の海岸に打ち上げられた死殻5個体を観察しており (杉村未発表)、浅海にも生息しているとみられる。

※*Amaea (Filsicala) laidlawi* (Melvill & Standen,1903) アミメナガイトカケ (Pl.3,fig.51) St2

備考：死殻1個体を観察したのみ。本種はこれまで紀伊半島およびベルシャ湾から記録されているが、最近、Nakayama (2003) によって和名新称された種で、国内の文献ではほとんど図示、言及されることがなかった。

※*Amaea (Acrilla) xenicima* (Melvill & Standen,1903) ツヤオビハブタエイトカケ (Pl.3,fig.52) St3

備考：死殻1個体を観察したのみ。本種はこれまでに紀伊半島以南のインド太平洋岸から記録されている (Nakayama,2003)。

※*Amaea (Scalina) mathildona* Masahito,Kuroda & Habe in Kuroda et al.,1971 アザブイトカケ (Pl.3,fig.53) St3

備考：死殻1個体を観察したのみ。本種はこれまで相模湾から土佐湾にかけての太平洋岸から記録されている (Nakayama,2003)。

※*Epitonium (Kiiscalalaxatoides* Nakayama,1995 ハズレイトカケ (Pl.3,fig.54) St6

備考：破損した死殻1個体を観察したのみ。本種はこれまで紀伊半島から土佐湾にかけての太平洋岸から記録されている (Nakayama,2003)。

※*Epitonium (Lamelliscalalatum* (Sowerby,1844) コハスイトカケ (Pl.4,fig.55) St2

備考：死殻1個体を観察したのみ。本種はこれまで奄美大島からフィリピンにかけての熱帯太平洋岸から記録されているが、最近、Nakayama (2003) によって和名新称された種で、国内の文献ではほとんど図示、言及されることがなかった。

※*Epitonium (Hyaloscalaglabratum* (Hinds,1843) ホソチャマダライトカ (Pl.4,fig.56) St2

備考：やや古い死殻1個体を観察したのみ。本種はこれまで紀伊半島およびインドネシアから記録されている (Nakayama,2003)。

※*Epitonium (Parviscalacarchdon* (Iredale,1936) ホソマキスジイトカケ (Pl.4,fig.57) St2

備考：死殻1個体を観察したのみ。本種はこれまで房総半島からオーストラリアを含む熱帯インド太平洋岸より記録されている (Nakayama,2003)。

※*Epitonium (Lamelliscalasimplex* (Sowerby,1894) マルヒメネジ (Pl.4,fig.58) St3

備考：やや古い死殻1個体を観察したのみ。本種はこれまで紀伊半島および南アフリカから記録されているが、最近、Nakayama (2003) によって和名新称された種で、国内の文献ではほとんど図示、言及されることがなかった。

※*Epitonium (Hirtoscalavirgintifoliatum* (Masahito,Kuroda & Habe,1971) ハタエイトカケ (Pl.4,fig.59) St5

備考：死殻1個体を観察したのみ。本種はこれまで相模湾から九州にかけての太平洋岸から記録されている (Nakayama,2003)。

Epitonium (Parviscalaximiellum (Masahito,Kuroda & Habe,1971) ホソサガミイトカケ (Pl.4,fig.60) St2

備考：死殻1個体を観察したのみ。

Epitonium (Parviscala) pulcherrimum (Sowerby,1844) センサイマキスジトカケ (Pl.4,fig.61) St2

備 考：殻口の破損した死殻1個体を観察したのみ。日本海と紀伊半島およびフィリピンからの記録があるが、最近、Nakayama (2003) によって和名新称された種で、国内の文献ではほとんど図示、言及されたことがなかった。

※*Epitonium (Parviscala) obliquum* (Sowerby,1844) ワカヤマイトカケ (Pl.4,fig.62) St2

備 考：死殻1個体を観察したのみ。本種はこれまで紀伊半島およびフィリピンから記録されているが、最近、Nakayama (2003) によって和名新称された種で、国内の文献ではほとんど図示、言及されたことがなかった。

※*Epitonium (Laeviscalca) fucatum* (Pease,1861) ダルマイトカケ (Pl.4,fig.63) St2

備 考：死殻1個体を観察したのみ。本種はこれまで紀伊半島からオーストラリアを含む熱帯インド太平洋岸、さらに南アフリカより記録されている (Nakayama,2003)。

※*Epitonium (Asperiscalca) spyridon* Kilburn,1985 ハナカゴイトカケ (Pl.4,fig.64) St3

備 考：死殻1個体を観察したのみ。本種はこれまで紀伊半島から台湾、さらにモザンビークから記録されている (Nakayama,2003)。

Family Aclidididae SARS,1878 センマイドウシ科

Aclis crystallina A.Adams,1861 ホソセンマイドウシガイ (Pl.4,fig.65) St6

備 考：死殻3個体を観察したのみ。

Family Muricidae RAFINESQUE,1815 アッキガイ科

Ergalatax tokugawai Kuroda&Habe in Kuroda et al.,1971 トクガワヒメヨウラク (Pl.4,fig.66) St3

備 考：死殻1個体を観察したのみであるが、これまでも、同海域から底引き網や立て網によって採集した3個体を観察している (杉村未発表)。

※*Mipus crebrilamellosus* (Sowerby III,1813) チヂワサンゴヤドリ (Pl.4,fig.67) St2

備 考：新鮮な死殻1個体を観察したのみであるが、これまでも、下関市角島近海から蛸壺によって採集した死殻1個体を観察している (杉村未発表)。本種は紀伊半島から沖縄にいたる日本本土太平洋岸および南シナ海から記録されている (Higo et al.,1999)。

※*Coralliophila caroleae* D'Attilio & Myers,1984 ネコジタサンゴヤドリ (Pl.4,fig.68) St7

備 考：1個体を観察したのみ。密な鱗片状の螺肋を巻き、やすり状 (奥谷他,2000)。本種はこれまで紀伊半島からフィリピンまでのインド太平洋岸から記録されている (Higo et al.,1999)。

Family Buccinidae RAFINESQUE,1815 エゾバイ科

※*Phos (Phos) naucratoros* Watson,1882 ヒメトクサバイ (Pl.4,fig.69) St2

備 考：死殻1個体を観察したのみであるが、これまでも、同海域の漸深海底から底引き網によって採集した2個体を観察している (杉村未発表)。本個体はこれまで観察した2個体と異なり、褐色の螺状糸を備えている。本種はこれまで房総半島以南の日本本土太平洋岸およびフィリピンから記録されている (Higo et al.,1999)。

※*Buccinum yokomarucae* Yamashita & Habe,1965 コウカイバイ (Pl.4,fig.70) St6

備 考：内唇付近の破片のみであるが、比較的新鮮。螺肋が顆粒状となる (山下・波部,1965) など、

殻の彫刻は本種の特徴をよく表している。本種は、和名の通り、黄海を模式産地としており(山下・波部, 1965)、これまで記録した *Tristichotrochus koma* (Shikama & Habe, 1965) コマエビスの分布域とも概ね重なっている(杉村, 1991, 2013)。国内から初めての産出例として、たいへん貴重な記録である。

Family Nassariidae IREDALE, 1916 オリレヨフバイ科

※ *Zeuxis subtranslucidus* (E.A. Smith, 1903) ヒダトリムシロ (Pl. 4, fig. 72) St2

備考: 死殻2個体を観察したのみ。本種はこれまで房総半島からオーストラリアにかけてのインド太平洋岸から記録されている (Higo *et al.*, 1999)。

Zeuxis sp. (Pl. 4, fig. 73) St3

備考: 殻の表面が磨滅した古い死殻1個体を観察したのみであるが、これまでも、下関市角島近海産の死殻6個体 (fig. 74) をはじめ、壱岐近海産の死殻20個体を観察している(杉村未発表)。殻は小型で細く、半透明のガラス質。螺塔は高く平滑であるが、細い螺溝が密で、体層で12~13本ある。肩部がやや太い結節となって縫合との間がいくぶん平らになる個体もみられ、それらは一様に淡褐色で、結節間はやや濃い褐色斑で彩色される (fig. 75)。

Family Fasciolaridae GRAY, 1853 イトマキボラ科

Fasciolaridae sp. (Pl. 4, fig. 76) St6

備考: やや古い体層肩部の破片のみであるが、殻の彫刻や形状から、同海域から底引き網で採集した未詳種 (fig. 77) と同種と判断した。殻はやや薄質で淡褐色を呈し、上方の螺層では、縦肋は強く螺肋と交わり籠目状となるが、体層では弱まる。水管溝はやや長く斜め後方に反る。壱岐近海から採集された個体は、縦肋は体層でも顕著で、螺肋もいくぶん粗い (fig. 78)。殻の形態から、一先ず本科の1種としたが、所属の決定については更に検討が必要である。

Family Costellariidae MACDONALD, 1860 ミノムシガイ科

※ *Vexillum (Pusia) sagamiense* (Kuroda & Habe in Kuroda *et al.*, 1971) サガミツクシ (Pl. 4, fig. 79) St2

備考: 死殻1個体を観察したのみ。本種はこれまで銚子沖から紀伊半島にかけての本州太平洋岸から記録されている (Higo *et al.*, 1999)。

Family Cancellariidae FORBES & HANLEY, 1851 コロモガイ科

Neadmete okutanii Petit, 1974 ニッポンコロモガイ (Pl. 4, fig. 80) St6

備考: 死殻5個体を観察した。

Admetula garrardi Petit, 1974 ビロードコロモ (Pl. 4, fig. 81) St2

備考: 古い死殻1個体を観察したのみ。

図版説明

Pl. 3: 36. *Pseudocypraea exquisita* ユウナムギツブダカラ 8.1×4.6mm 37. *Prionovolva ericae* サクラコダマウサギ 6.2×3.7mm 38. *Primovula (Primovula) habui* ハブケボリ 7.0×2.8mm 39. *Carpiscula galearis* カブトケボリ 4.8×2.2mm 40. *Crenovolva (Cuspivolva) cuspis* トガリアヤメ 9.1×4.4mm 41. *Crenovolva (Cuspivolva) draperi* ドレイパーケボリ (殻の下半分が破損) 42. *Acyvolvula clara* ユキキヌズツミ 24.2×3.5mm

43. *Robertotrivia sagamiensis* サガミシラタマ 6.1×4.4mm 44. *Limneria bulla* マルハナヅト 6.6×6.1mm
 45. *Lunatia sagamiensis* サガミオリイレシラタマ 5.0×4.8mm 46. *Tanea tabularis* シシダマ 5.8×5.9mm
 47. *Naticarius excellens* ヒメフログイ 8.3×7.4mm 48. *Obstopalis* sp. 7.1×1.8mm 49. *Cyrosca* (*Circulosca*)
iwaotakii タキイトカケ (殻口および螺塔の大半が破損) 50. *Amaea* (*Amaea*) *foulisi* チャイロコナガイトカケ
 4.2×1.8mm 51. *Amaea* (*Filiscala*) *laidlawi* アミメナガイトカケ 5.8×2.9mm 52. *Amaea* (*Acrilla*) *xenicima*
 ツヤオビハブタエイトカケ 8.2×2.9mm 53. *Amaea* (*Scalina*) *mathildona* アザブイトカケ 7.5×2.3mm
 54. *Epitonium* (*Küscala*) *laxatoides* ハズレイトカケ (体層の一部)
 P1.4: 55. *Epitonium* (*Lamelliscala*) *alatum* コハスイトカケ 4.9×3.2mm 56. *Epitonium* (*Hyaloscala*) *glabratum*
 ホソチャマダライトカケ 9.0×3.4mm 57. *Epitonium* (*Parviscala*) *carchdon* ホソマキスジイトカケ 10.2×
 23.6mm 58. *Epitonium* (*Lamelliscala*) *simplex* マルヒメネジ 4.9×2.3mm 59. *Epitonium* (*Hirtoscala*)
virgintifoliatum ハタエイトカケ 6.0×2.7mm 60. *Epitonium* (*Parviscala*) *eximiellum* ホソサガミイトカケ 10.5×
 3.9mm 61. *Epitonium* (*Parviscala*) *pulcherrimum* センサイマキスジイトカケ 1.9×1.2mm 62. *Epitonium*
 (*Parviscala*) *obliquum* ワカヤマイトカケ 9.4×4.4mm 63. *Epitonium* (*Laeviscala*) *fucatum* ダルマイイトカケ 6.7×
 2.8mm 64. *Epitonium* (*Asperiscala*) *spyridon* ハナカゴイトカケ 1.8×1.3mm 65. *Aclis crystallina* ホソセンマ
 イドウシガイ 13.0×2.5mm 66. *Ergalatax tokugawai* トクガワヒメヨウラク 9.1×4.9mm 67. *Mipus*
crebrilamellosus チヂワサンゴヤドリ 17.4×10.4mm 68. *Coralliophila caroleae* ネコジタサンゴヤドリ 8.5×
 6.7mm 69. *Phos* (*Phos*) *naucratoros* ヒメトクサバイ 35.2×14.6mm 70. *Buccinum yokomaruuae* コウカイバイ (体
 層の一部) 71. *Buccinum yokomaruuae* コウカイバイ (黄海産) 34.1×19.1mm 72. *Zeuxis subtranslucidus* ヒダ
 トリムシロ 14.7×7.2mm 73. *Zeuxis* sp. 7.7×3.0mm 74. *Zeuxis* sp. (下関市角島近海産) 7.2×3.2mm
 75. *Zeuxis* sp. (壱岐近海産) 9.9×4.3mm 76. *Fasciolaridae* sp. (体層の一部) 77. *Fasciolaridae* sp. (山
 口県日本海沖産) 22.0×8.7mm 78. *Fasciolaridae* sp. (壱岐近海産) 19.0×8.1mm 79. *Vexillum* (*Pusia*)
sagamiense サガミツクシ 7.2×2.2mm 80. *Neadmete okutanii* ニッポンコロモガイ 9.1×4.6mm 81.
Admetula garrardi ビロードコロモ 9.1×6.1mm

引用文献

- 山下秀夫・波部忠重 (1965) 黄海産エゾバイ属の1新種. *Venus* 24 (2):103-105.
 Higo,S., Callomon,P.& Goto,Y. (1999) Catalogue and Bibliography of the Marine Shell-Bearing
 Mollusca of Japan.749pp.Elle Scientific Publicatoin,Yao.
 飯野 剛 編・高田良二 監修 (2010) ウミウサギ 生きている海のジュエリー 224pp.誠文堂新光社,東京.
 Nakayama,T.2003. *A Review of Northwest Pacific Epitoniids (Gastropoda:Epitoniidae)*. (Monographs of Marine
 Mollusca,no.6). vii+143pp.,20pls.Backhuys Publishers,Leiden.
 奥谷喬司 (2000) 日本近海産貝類図鑑. 1173pp.東海大学出版会.
 杉村智幸 (1991) 下関で得られた東シナ海-黄海産コマエビス. 山口県の自然 51:38-41. 山口県立
 山口博物館.
 杉村智幸 (2013) 山口県日本海の貝類:ドレッジで採集した漸深海底の貝類 (I). 山口県の自然 73:
 17-24. 山口県立山口博物館.

